

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100097		
法人名	有限会社 大塚台夕月		
事業所名	グループホーム野の花		
所在地	宮崎市大塚台西3丁目23番地2		
自己評価作成日	平成26年11月28日	評価結果市町村受理日	平成27年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.in/45/index.php?action=kouhou_detail_2014_022_kanitrue&lievsovoId=4590100097-00&PrefCd=45&WarainCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年12月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高台の住宅地の中に位置する等、グループホームは地域に溶け込むように自治会に入会し、自治会活動の行事やイベント等に参加している。近辺に児童館や保育園、コミュニティセンター、小学校があり、季節の行事や敬老会、食事会、小学生の唱歌の慰問など、一年を通して数々の交流を行っている。毎日のテレビ体操や公園への散歩、雨や風の強い日は室内を音楽に合わせて歩行訓練を行い、下肢筋力の低下を防ぐ努力を行っている。看護師がホームの近辺に居住するため、医療的な処置が必要となきときはすぐに駆けつけ、かかりつけ医と連絡をとり、適切な処置を行うなど、職員も安心して介護にあたっている。高齢になっても人は食事は食べることが楽しみの一つであるが、調理の得意な職員を毎日配置して、バラエティに富んだ献立で、美味しい食事を提供するように取り組んでいる。介護度5になって意志の疎通が困難になった利用者にも尊敬をもって対応し、家族からも信頼されている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大規模団地の中に2007年に開設されたグループホームである。近くには、コミュニティセンター、児童館、保育所、公園等がある。「家庭的な環境」、「地域との関わり」、「一人ひとりの尊厳を保ち、プライバシーの保護」、「職員の自己研鑽と介護の質の向上」を理念とし、運営者及び職員は、理念の実践に一生懸命取り組んでいる。自治会の行事に積極的に参加し、保育園や小学校との交流など、地域との関わりを大切にしている。ホームは家庭と同じという方針で、新聞を購読している利用者、宅配牛乳を取っている利用者など、入居前の生活を継続できるように、その人らしく生活できるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の就業時に目につく場所に理念を掲げ、職員それぞれが意識しながら実践できるようにしている。	3年前に職員の話し合いにより、開設時の理念(6項目)を4項目の理念に改めている。全職員が理念の実践に努め、家庭的な環境の中で、地域に溶け込んだホームになっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧板を通して自治会行事に参加している。ふれあい食事会などで顔見知りになり、日常的に挨拶をかわし、気軽に話をしている。	自治会に加入し、自治会行事に積極的に参加している。近くのコミュニティセンターでのふれあい食事会や茶話会に利用者が参加し、地域の一員として交流している。児童館、小学校、保育園等との交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のカラオケグループに、月に1回ホールを開放して利用者と共に歌を歌ったり、おしゃべりをして、認知症についての理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会、民生委員、家族代表、地域住民代表、地域包括支援センター利用者の参加で、サービスの取り組み状況などについて報告や話し合いをしている。	会議では、近況報告や行事報告を行っている。新たに地区の駐在所から出席してもらい、「GPS機能付き携帯電話」について話を聞き、今後の利用者の対応に関して参考にするなど、サービス向上に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村からの連絡事項やアンケート等で説明を聞きたい時、事業所で届物があるときなど、担当者と積極的に交流し、協力する関係を築くよう努めている。	運営者は、市担当窓口に出向き、担当者と直接話をするように努めている。利用者の家族の意見について対応を相談するなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、利用者不穏時に、一時的・緊急的に使用しているが、日中の施錠は基本的にはしておらず、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、身体拘束について、職員会議にて研修を行っている。	現在、入居3か月の利用者の対応に苦慮しており、一時的に玄関の施錠をすることがある。利用者の行動について原因等を把握し、ケアの取組について全職員で何度も話し合い、家族とも話をしている。全職員が身体拘束をしないケアについて理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待はもちろん、精神的虐待につながるような言動がないよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修会に参加して職員での勉強会を開いたり、成年後見制度については講師を招き、学ぶ機会を得た。必要に応じ利用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の説明を重要事項説明書等で充分に行っている。契約書をじっくりと読み込んでもらい、疑問にはその都度明確に答えるようにし、納得して頂いた上で契約締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族にも参加をお願いし、意見や要望をだしてもらう機会を設けている。また、面会時に要望はないか尋ねたり、意見を出しやすい環境を作るようにしている。	運営推進会議や来訪時に、家族の意見や要望を聞いている。食事に関する意見等をサービス提供に反映させている。ホームは家族に対してもオープンであることを強調している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	問題が発生した場合、その都度職員会を開き、検討して、運営に反映させている。	月1回及び問題が発生した場合の職員会において、意見を出し合っている。運営者は、必要な物品の購入など、職員の要望はすぐに実現するように努めており、職員間のコミュニケーションを大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が利用者の介護にやりがいを持って接することができるように、職員の希望・要望を最大限に聞き、それに添えるように努力している。給与体制も希望に添い、残業もせず、スムーズに次に繋げるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護の質の向上に繋がるよう、職員一人ひとりの希望する研修には参加をするように奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターが主催する研修に、管理者と職員が出席し、他の事業所との交流や勉強会等の活動を通じ、情報交換やサービスの質の向上に役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前から情報の収集につとめ、不安軽減のために話を聞いたり、一緒に行動したりしている。環境の変化に戸惑わないようによりそうようになっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に家族に伺ったこと以外に、新たな要望があるときは、電話や面会時に伺うなど、いつでも相談して頂ける体制を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の希望を聞き、必要な支援は何かを見極めるように努力している。他のサービス利用が必要と思われるときは、利用するために必要となることは何か、情報収集し家族に伝え、話しあったうえで判断するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	体調をみて、洗濯物たたみや食器洗い、掃除などを一緒にして頂くようにしている。職員は尊厳をもった対応を心がけ、共に同じという態度を表して接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日常の楽しいエピソードを家族の面会時に話し、笑顔を共有している。家族が面会に来やすく、話しやすい環境をつくるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前、勤めていた職場の同僚がだずねてこられたりしている。面会に制限がないこと、面会時間も事前に連絡してくれば夜間遅い時間でも対応できること、外出や外泊も可能なことを家族に伝え奨励している。	知人、友人の来訪があり、来訪を歓迎する環境を整え、なじみの人との関係継続を大切にしている。正月や盆の帰宅について家族の意向を確認するなど、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はホールで過ごしてもらい、自室に閉じこもってしまわないように声を掛けている。ホールでテーブルを囲み、座ることで利用者同士が話しやすい環境をつくり、職員が話題の提供をすることでお互いが興味をもち、会話を持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の病院に面会に行ったり、家族に電話したり、会ったりして情報をもらい、近況を確認している。家族から相談があれば、答えられるように情報の収集を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者、家族から好きなこと、今までしてきたことを聞いたり、本人の動きや生活動作の中で意向を見だして、職員で情報を共有している。	職歴、生活歴等を参考にし、家族からの聞き取りを特に重視している。日常の生活の中で新たな発見もあり、ケアに役立てている。入浴の介助をしながら会話をし、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族や前のケアマネの方、施設の職員などから情報をもらい、アセスメントしながら経過を把握している。家族の写真を飾り、いつまでも家族と繋がっていることを感じられるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	勤務に入る前に、前職員から状況の申し送りをうけ、記録を確認している。変化のあった利用者については、いつ頃からの変化か、職員はどう対応していくのが良いかを職員同士で話し合っ業務にのぞんでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは、スタッフ、看護師に聞きながら行い、サービス担当者会議は、家族の意見を把握し、参加して頂き、実施している。また、スタッフ会議でサービス内容確認を行っている。	本人の日々の生活で課題を把握し、家族の意見や要望を聞き、職員会議で意見を出し合い、介護計画に反映させている。月1回のモニタリングは、管理者、担当者、看護師で行い、変化が生じた場合は、見直しのためのモニタリングも実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	夜勤、日勤の記録は色分けし、職員が把握しやすいようにしている。職員間で意見を出し合い、情報を共有し、実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の体調の変化に合わせ、柔軟な対応で、その人のニーズに添えるように、職員みんなで取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近位の児童館から行事参加の招待を受け、子供達と交流したり、乳幼児を主にした子育ての座談会に参加し、赤ちゃんをだっこしたりしている。地域のボランティアの方々の定期的な訪問も利用者の楽しみになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は利用者個々のもつ疾病の特殊性と本人、家族の意向を考慮しながら決めて頂き、かかりつけ医と看護師、職員も関係を密にして、安心して医療を受けられるように支援している。	受診には家族が同行し、困難な場合は看護師が同行し、それぞれ結果を報告している。協力医の往診が月に2回、歯科医の訪問診療もある。緊急時の対応についても、医療機関との支援体制を構築している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、不規則な勤務態勢の中で利用者の身体に関する変化を早急に捉え、詳細な記録と共に申し送りを確実にし、看護師に報告し、看護師の見解を得た上で、主治医に伝え、疾病の早期発見に繋がるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には、入院に至るまでの日常の情報、健康面についての情報を提供している。面会を通じて医療機関と情報を共有することで、本人、家族が安心して治療に専念出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス会議時に必要な利用者にはこれから予想される身体の変化やホームで出来ること、難しいことを看護師と一緒に話している。家族の思いを最優先にするために、家族の意向をその都度確認し、職員会議において協議している。	利用契約書の第8条に看取りの指針を定めている。運営者や管理者は「揺るぎない家族の思い」を尊重し、利用者の状況変化に対応し、その都度話し合いをしている。ホームで看取りの経験もあり、看護師も配置し、支援の体制はある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行っている職員会議の中で、利用者の怪我や事故に対する初期の応急手当を実践で役立てるように訓練したり、毎日の介護の中で実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練時は当然のこと、職員が利用者の避難方法を身につけるように訓練に取り込んでいる。運営推進会議等で地区の自治会長が参加するたびに、災害対策の協力を依頼している。	避難訓練では、夜間を想定した訓練も実施している。地域住民の協力体制も整っている。災害時に備えて、水と食料を備蓄しているが量的に十分ではない。	水や食料は必要量を備蓄し、災害時のトイレやおむつ、その他ホームとして備えておく物品について何が必要か検討し、準備することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	近くに行き、耳元でトイレの声をかける、失禁時も他の利用者に気づかれないように手早く対応するなど、誇りやプライドを維持していることを意識しながら支援している。	理念の中に、「一人ひとりの尊厳、プライバシーの保護」を掲げ、実践に取り組んでいる。職員の対応に問題がある場合は、管理者は職員会議やその場で注意し、研修も実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望を表出しやすいように、椅子と一緒に座り、話をきいている。先月はラーメンが食べたいという思いをきき、みんなで食べるにかけた。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調、想いを把握することにつとめ、それに合わせて日々の生活を送っている。天気の良い日の散歩など、気持ちにあわせ距離を決めたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者が、今日はこれが着たいと言われる服を着て頂き、個々のお洒落をたのしむようにしている。男性はひげそりをしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者との会話の中で何が食べたいかリクエストを聞き作っている。ミキサー食の方も味が単一にならないように、副菜の組み合わせを工夫している。	運営者が毎日新鮮な材料を仕入れ、居間(ホール)に隣接した台所で職員が調理をし、家庭的な食事を提供している。外食の機会を設け、食事を楽しむ支援をしている。	毎日新鮮な材料を仕入れることは継続しながらも、利用者の希望や職員の意見を取り入れて、あらかじめ献立を作成することを期待したい。専門家に栄養摂取に関して助言を受けることも期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に体重をはかり、血液検査の結果をふまえ、栄養状態を把握し、配膳している。食がすすまない時、むせがある時はとろみをつけたり、少し甘めを試みたりしてすすめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを声かけし、洗面台に誘導して、介助がいる方にはできないところを手伝い、自分でできる方は指示している。夕食後は全員の義歯を預かり、乾燥しないように水につけ、週に1度ポリドントを使い、義歯の洗浄を行っている。		

宮崎県宮崎市 グループホーム野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間リハビリパンツや尿取りパットを使用している利用者にも、日中は布パンツに履き替えてもらい、トイレでの排泄ができるように支援している。	トイレ誘導を行い、トイレでの排せつができるように支援している。おむつ使用の利用者には、羞恥心や自尊心に配慮して対応している。リハビリパンツや尿取りパットを使用している利用者も、改善できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食事に心がけ、おやつに繊維の多いふかしイモを提供したりしている。水分の摂取、毎日の運動を推進し、それでもないときは、看護師、主治医の指示で下剤の調節を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の順番をローテーションで変えていき、1番風呂を決めている。入浴の拒否があるときは、看護師に体調を確認してもらい、再度奨めたり、時間を変えてみたり、介助する職員をかえるなど、自分から入ると言ってくれるように工夫している。	基本的には、冬は週2回、夏は週3回の入浴であるが、状況により柔軟に対応している。入浴の時間は、利用者と職員が会話を楽しみ、くつろいだ気分になるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に応じ冷暖房を調節して室温の管理を行い、入眠しやすい環境を整えている。入眠の時間は個々であるため、本人の眠りたい時間、起きる時間にあわせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の薬の説明書をファイルして、いつでも利用者に説明出来るようにしている。下剤など、日々の調整が必要な時は職員は看護師に確認し、準備している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれの趣味や好きなこと、塗り絵やカラオケ、折り紙などを準備し、いつでもできるようにしている。猫好きな利用者が猫の人形を抱えて世話している時は、職員も生きている猫と同様に扱い、一緒にかわいがっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近位の公園に散歩に行ったり、同系列のホームと合同で福祉バスを使い、家族と一緒に花見に出かけたりしている。地域の食事会に参加したり、家族の協力のもと、家族との外出も奨めている。	近くの公園に散歩に出掛けたり、買物や地域の行事に参加するなど、外出支援に努めている。利用者の希望でラーメン店に行ったり、外出が楽しくなるように工夫している。福祉バスも活用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持することで安心する利用者には、財布の中に千円札を小さくたたんでいれている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば、電話を職員が代行してかけるようにしている。家族の了解をとり、不安が強い時に話をしてもらうために電話をかけたり、さみしがっている時に家族からかけてもらったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	みんなが食事をしたり、日中過ごすことの多いホールに季節事に花飾りや季節にちなんだ絵をかざったり、行事の時にとった写真をはったりし、会話のきっかけになるようにしている。共同の浴室、トイレなどは常に清潔に保っている。	居間(ホール)にはソファを置き、ゆったりと過ごす空間になるように整えている。エアコンは、利用者の意見を聞きながら温度設定している。クリスマスツリーを置き、利用者が季節を感じ、家庭的な雰囲気与生活できるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	馴染みの利用者同士隣あわせの席で自然な会話ができるようにしている。ホールの壁際にソファをおいているが、テレビの音から遠ざかりたい時や独りで座っていたい時に利用するようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談して今まで使っていた馴染みの物を持ってきてもらい、自室においたり、家族の写真飾ってもらったりしている。表札をつけてそれぞれで飾りをつけ、自分の部屋であることを意識出来るように支援している。	寝具、家具、なじみの物を持ち込んでもらい、落ち着いて過ごせるように配慮している。ぬり絵を壁に貼ったり、個性を尊重した居室になるように工夫している。一人ひとりが自宅と同じ生活が継続できるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知能力の高い利用者は、奥の部屋、急変が予想されたり所在確認が常に必要な方は、ホールに面した部屋になっている。		